

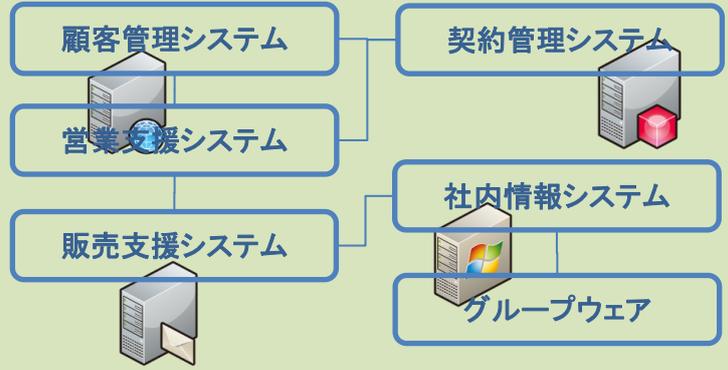
基幹システムと情報系システムの融合

- Integration of Mission-Critical-Systems and Information-Systems -

基幹システム



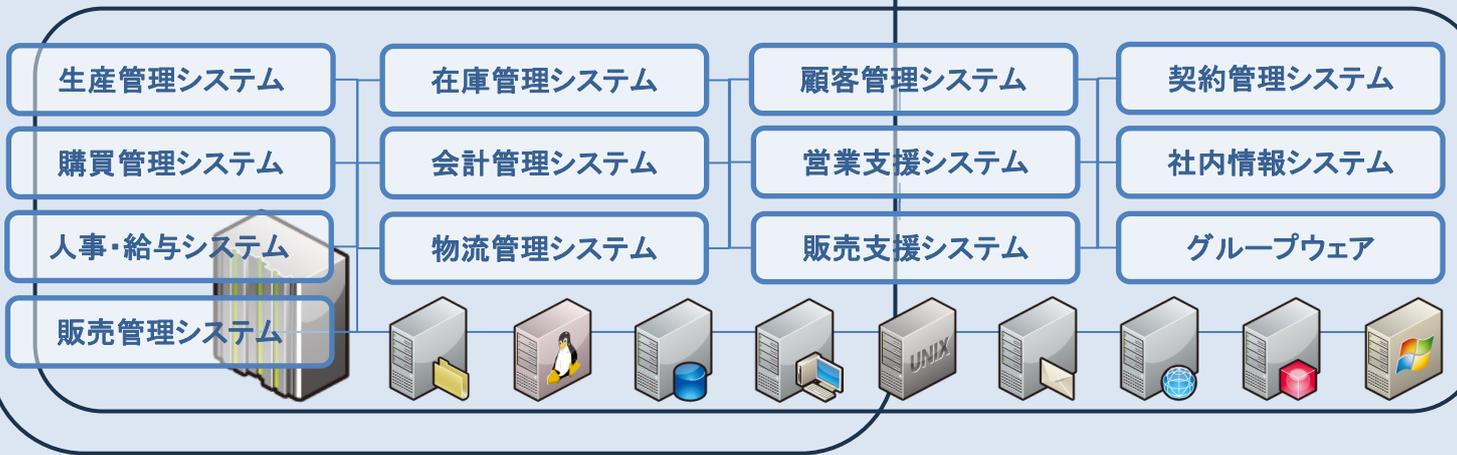
情報系システム



全社IT資産

基幹システム

情報系システム



メインフレーム環境を含む基幹システムでは、独立した業務単位でシステム構成されている場合が多くみられます。オンライン処理とバッチ処理で運用されている基幹システムは、その名の通り「企業の運営で基幹となるシステム」であり、ミッションクリティカルなシステム、すなわち、一定時間内に処理され停止してはならないシステムを示します。基幹システムは情報系システムとは異なり、停止が企業の命取りもなりかねない重要なシステムなのです。

基幹システムと情報系システム（販売、営業、支援）とは従来分離されて管理されてきましたが、技術の進化にともない、全社IT資産を連携させリアルタイムで処理を進めないと、現在の企業競争のスピードに取り残されてしまい企業の優位性が失われ、窮地に立たされる結果となってしまいます。

今、必要となるのは基幹システムの融合です。サイロ（分断）化された個々の独立したシステムを連携し、1つのシステムで複数の業務を包括できるような環境に変貌させていくことこそが、企業力を活性化させ企業競争に勝ち抜く手段なのです。

STEP1: 現状分析

融合の第一歩は、現状のデータおよびプロセスの分析です。フローチャート化等の業務フローを見える化し（iGrafx）、現在の状況を把握しましょう。



STEP2: 計画、設計、体制整備

分析結果から、ERPによる連携業務の青写真を作成します。計画策定では、目標（解決すべき課題）を設定することが大切です。設計ではアセスメントサービス（CEC）や実際の連携、導入方式や構築後のアフターサービスを念頭にいれるとよいでしょう。

アセスメント
サービス

STEP3: 新システム構築・試験

設計された構成から、新システムを構築するにあたっては、新業務フローの動作確認や現在の業務フローとの比較検証（PerfectTwin）が必要となります。



STEP4: 移行、本番化、DX推進

そして実際に本番化するにあたっては、現システムのデータを確実に新システムへ移行し、最終テストののちに本番運用を開始します。本番システムではセキュリティ保護などの検討も必要となります。また、PDCAを絶えず行い改善を進めることで、新しいアーキテクチャを取り込むことも肝要です。



STEP n: 基幹システム（メインフレーム）効率化によるコスト削減

STEP1～4の中で基幹システムの中のメインフレームが継続活用される場合や移行・再構成の対象となるのであれば、その効率化とコスト削減を検討するのがよいでしょう。メインフレームは総コストの中で占める割合が高いため、その効率化により大きくコストを改善できる効果が見込まれます。



[ESTCOMPR]

ファイル属性を問わず、比較/検証して相違部分を検出。監査用ツールとしても適している。メンバ内文字検索機能やフィルター機能も有している。



[MASKAMBLE]

本番データの個人情報や機密情報のフィールドをデータマスキングやスクランブルすることで、安全にテスト利用を可能に。



[IOFMSP]

スプール管理・ジョブ実行監視・コンソールシミュレーション・ログ検索など多彩な機能で開発、運用等のTSSユーザの生産性を向上。



「Syncsort」

高性能ソート/マージ/コピー/ジョイン・プログラム。システム負荷を極力軽減しながら、スループットを向上させることができます。

「メインフレームデータの情報系システム連携での効率化も可能！」



DataSpider ServistaのHULFTアダプタでメインフレームデータを連携変換、そのデータをPleasanterなどでWeb共有。



HULFT, DataSpider Servistaおよびこれらのロゴは、日本その他の国・地域における、株式会社セゾンテクノロジーの商標、または、登録商標です。Pleasanterは株式会社インプリムの登録商標です。All right reserved, CEC Customer Service, ltd.

CCS 株式会社 シーイーシーカスタマサービス

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿1-5-5 JR恵比寿ビル8F
TEL : 03-5789-2443 FAX : 03-5789-2575
E-mail : ESECinfo@cec-ltd.co.jp <https://ceccs.site>